

地域住民が主役の道路整備の変遷 ～静清バイパス全線4車線開通、50年の軌跡～

小笠原 大城¹

¹静岡国道事務所 計画課（〒420-0054 静岡市葵区南安倍2-8-1）

静岡の産業を支え、都市機能の中心を担ってきた国道1号静清バイパスは、都市の発展と共に段階的な部分開通を経て全線4車線開通の運びとなった。静清バイパスは延長24.2kmの主要幹線道路であり、静岡県内の東西を結ぶ重要な路線を担っており、地域の方から親しまれてきた。この静清バイパス事業は、昭和43年の事業着手から平成30年で50周年を迎え、その間、地域住民へのコミュニケーションを図り、地域住民が事業展開・整備効果を実感できる様々な企画を開催し、戦略的な広報活動を展開することで地域との協働へと変えていった。

キーワード：広報戦略、地域コミュニケーション、道路整備、事業展開、社会基盤

1. はじめに

国道1号静清バイパスは、静岡県静岡市清水区興津東町から駿河区丸子二軒家に至る延長24.2kmの主要幹線道路であり、静岡市中心部を通過する国道1号の交通を迂回させ、静岡市における通勤・通学・買い物等の日常生活の利便性の向上、効率的な物流、交通混雑の緩和、交通安全の確保を図るものである。また、静岡市内を南北に延びる幹線道路と接続し、物流拠点である清水港や東名高速道路・新東名高速道路などの高規格幹線道路と接続する静清都市圏の経済発展に欠かすことのできない重要な役割を担っている。この静清バイパスが地域の発展を図る社会基盤となり、道路整備によって平均走行速度向上、移動時間の短縮、交通事故の減少・抑制、交通渋滞解消によるCO₂の削減、地場産業や観光などの支援等の整備効果が発揮されてきた。

本稿では、静清バイパス全線4車線開通までの50年の歴史を振り返ると共に、地域住民とのコミュニケーションに関する取り組みについて紹介するものである。

2. 国道1号静清バイパスの歴史

静清バイパスは昭和43年に事業着手し、平成9年の全線暫定2車線で開通した。その後、段階的な4車線化・立体化を経て、平成30年12月の牧ヶ谷IC～丸子IC間の4車線化をもって静清バイパス全線が4車線開通となった。

静清バイパスの位置図を図-1に、静清バイパス事業着手

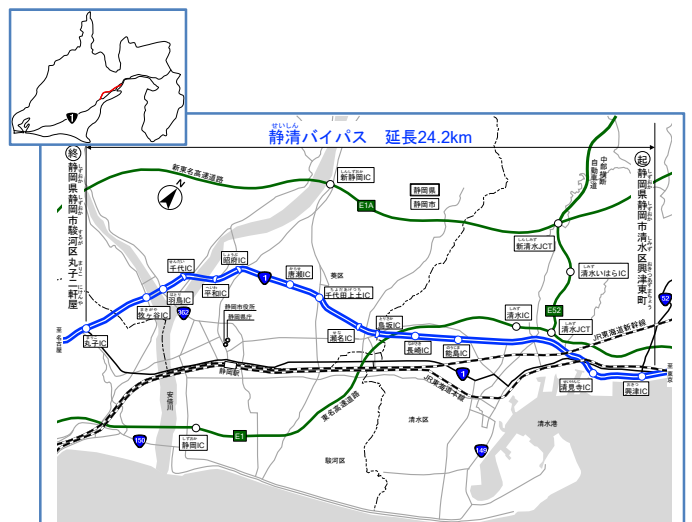


図-1 静清バイパス全線の位置図

表-1 静清バイパスの事業経緯

事業経緯	
昭和43年 4月	事業化
平成 9年 3月	全線暫定2車線開通
平成18年 3月	千代田上土IC～唐瀬IC間4車線化
平成20年 3月	清水IC西～鳥坂IC間4車線化 昭府地区 暫定2車線立体化
平成24年 2月	唐瀬IC～羽鳥IC間4車線化
平成27年 3月	羽鳥・牧ヶ谷ICフルインター化 鳥坂IC～千代田上土IC間4車線化
平成30年12月	牧ヶ谷IC～丸子IC間4車線化 全線4車線開通

から全線4車線開通までの経緯を表-1に静清バイパスの事業展開を図-2に示す。静清バイパスは地域の協力とともに事業を推進してきた。しかし、事業着手当初は、地域から事業内容への不安の声があったため、工事实施区間などの調整を図り、ご理解が得られた平面4車や渡河橋部から順に着手していった。

その後も事業に対する理解を深めていただく目的で説明会を開くなど、広く意見を聞くことで事業を展開してきた。こうした経緯もあり、近年では、地域住民に対し、見学会などの各種イベントを実施し、静清バイパス事業に対する理解を深めてもらうとともに、地域主体の事業として静清バイパス事業を展開してきた。

3. 近年の地域住民とのコミュニケーション

地域にとっての道路機能や安全性について十分に意見交換をしてきた。ここでは、近年行われてきた地域交流の事

例をいくつか紹介する。

(1) 清水立体化事業

静清バイパスは現在、清水地区の平面区間を除き全てが立体化している。事業着手後初めに開通した清水地区を最後に立体化（現在の清水立体化事業）することで静清バイパス全線立体化が完了する。

平成30年1月28日に清水立体化事業の起工式を行った（図-4）。概要は下記のとおりである。

場 所：静岡市清水区庵原町地内（JAしみず）

主 催：静岡国道事務所・静岡市

参加者：約150名

この式典では地元小学生による絵画製作（図-3）、記念碑作成、タイムカプセル作成及び動画の制作、地元団体による太鼓の演奏等、地元を主役として記念行事を行った。この絵画の記念碑は現在、清水立体化事業区間にタイムカプセルと共に設置されている。

この取り組みへの反響は大きく、清水立体への期待はより大きくなったと言える。



図-2 静清バイパスの事業展開



図-3 「未来の橋」絵画



図-4 「未来の橋」絵画・タイムカプセル序幕（清水立体起工式）

その後、平成30年8月1日には地元業者・関係機関を交え静清バイパス(清水立体)意見交換会を開催した(図-5)。概要は下記のとおりである。

会 場：静岡商工会議所 清水事務所

企 業：第一倉庫(株)、(株)アイビック、セイリン(株)

当該地域に拠点を持つ企業より「清水立体周辺道路の利用状況」「道路整備に対する期待」などについて発表いただくとともに、官民で意見を交換し、今後の事業展開について積極的に話し合った。

(2) 牧ヶ谷IC～丸子IC

静清バイパス事業は段階的な開通と共に、地域参画型の開通イベントや様々な催しを行ってきた。記憶に新しいのは、丸子藁科トンネルⅡ期線区間の交流イベントである。当区間では平成29年度より地域と密着しながら、工事施工から完成までを共に見守ってきた。

地域の意見を踏まえ、平成29年度の夏休み期間に2度親子見学会を開催した。7月22日の第1回(図-6)では、普段立ち入ることの出来ない「新しい橋の上を親子で散歩」しながら見学してもらう他、丸子藁科トンネル内の舗装の現場を見ていただき、道路工事について親子で理解を深めていただいた。8月26日の第2回(図-7)には、架設中の高架橋架設現場の見学やボルトの締め付け体験、ドローンの飛行見学や工事用建設機械の見学、測量体験等のイベントを通じて、楽しみながら道路工事への興味と理解を深めていただいた。その後平成29年9月3日には、当区間で施工される最後の高架橋であり、全線4車線化に必要な最後の高架橋である丸子高架橋にて、記念として最終ボルト締結式を開催した(図-8)。

また、平成30年7月14日には、全線4車線化開通に向け整備を進めている静清バイパス牧ヶ谷IC～丸子IC間での、車線切り



図-5 清水立体意見交換会



参加者で記念撮影(泉ヶ谷高架橋の前で)



ボルトの締め付けや測量を体験

図-7 平成29年8月26日 夏休み親子見学会



参加者で記念撮影(丸子藁科トンネルの前で)



工事中の橋を空中散歩

ボルトの締め付けを体験

図-6 平成29年7月22日 夏休み親子見学会



締結者で記念撮影



南葉科学区自治会連合会会長と
長田西自治会連合自治会会長

地元小学生もボルト締結に参加

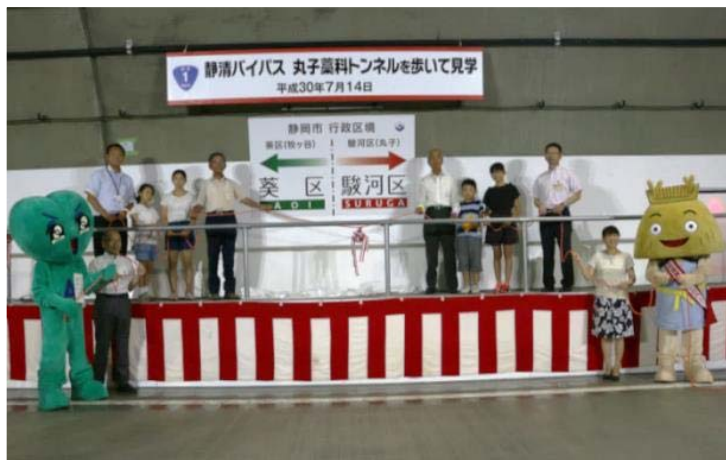
図-8 平成29年9月3日 最終ボルト締結式

替え実施に先立ち、丸子薬科トンネル内を歩く最後の機会となるため、地元の方々等を対象としたトンネルを歩いて見学するイベントを開催し、当トンネルの事業記録映写や、スタンプラリーをしながらトンネルを歩いた(図-9)。この丸子薬科トンネルの中間付近は静岡市葵区と駿河区の区界になっており、地元小学生と一緒に区界標識の除幕を行った。

そして、平成30年12月22日に静清バイパス全線4車線開通の記念式典を行い、地元団体の獅子舞を披露していただき、地元小学生には「みんながよろこぶあたらしみち」をテーマに絵画を描いてもらい、除幕を行った(図-10)。



参加者で記念撮影(丸子薬科トンネル西坑口)



区境標識を除幕(丸子薬科トンネル内)



スタンプラリー
チェックポイントでスタンプ押印



静清バイパスの歴史を学ぶ
(スタンプラリー最終地点)

図-9 平成30年7月14日 丸子薬科トンネルを歩いて見学



記念行事「みんながよろこぶ あたらししみち」絵画除幕



「みんながよろこぶ あたらししみち」絵画



みんながよろこぶ あたらししみち
(絵画制作：南薬科小学校)



獅子舞の演舞
(丸子獅子舞保存会)

図-10 平成30年12月22日 静清バイパス全線4車線開通記念式典

4. おわりに

今後はこの歴史ある道路を後世に引継げる社会基盤として地域の方々や企業とも協働し、守っていく必要がある。この50年で地域と培ってきた静清バイパスは一つの財産である。今後の清水立体事業についても引続き地域と協働し、一つの財産として推進していくべきである。

国道1号静清バイパスの整備により、多くの整備効果を得られた一方、現道区間では交通渋滞、事故など、まだまだ改善する余地がある。自動運転の進歩やMaaS(マース)など、技術力の向上に伴い今後のネットワークの在り方について考えていくべきだと思われる。皆さんも今後50年の静清バイパスがどう変化していくべきか考えるのも良いかもしれない。